

栗山町まちづくり懇談会 議事録

日時：令和4年10月31日（月）18：30～19：56

場所：阿野呂公民館

出席者：9名

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 懇談

- (1) 第7次総合計画の策定について
- (2) 自由懇談

4. その他

○空き家相談窓口チラシ参照

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：前に栗山高校魅力づくり委員会があり、女子野球部の話があったが途中で終わってしまった。地域に根差した科をつくろうという話だったと思います。いま魅力化ビジョンの推進の中で話されているかと思いますがどのように進んでいるのか。

教育長：3月にご提示した内容が、1学年4間口以上ないと新たな科を創設できないという規定があり、新たな科は創設できないということです。教育委員会が委員の皆様に事前にお知らせしておかなければならないことであつたが、最終的に3月の最終的にまとめる段階でお知らせすることとなった。栗山高校は2間口でありながら、普通科でなおかつ特色ある高校として福祉に関する意見が出ていました。その福祉に特化した部分で栗山高校をつくれないうこと、1年生から3年生まで35時間ずつ全部で105時間を栗山町の福祉と介護に特化した時間を作ります。専門の先生はいませんので、福祉に特化した業者を入れて進めています。そのカリキュラムに沿って進めていきます。それだけでは全国公募に繋がりませんので、文部科学省の事業で高専一貫プログラム・カリキュラムづくりという事業があります。教育委員会としては、まず介護福祉学校の赤字の部分を何とかしなければなりません。今のままでは赤字が膨らむだけです。国には色んな事業があ

りますが、数千万円単位での事業はそれほどありません。先ほどお話しした文部科学省の事業で、1年間2千4百万円で六年間の事業があります。それに手を挙げ申請し、初めて道教委とのテーブルにのることが出来ました。女子野球部だけですと、公立高校の場合は魅力づくりになりませんので、教育課程の中で町とどうコラボしていくかというところが道教委の着眼点でありましたので、福祉と介護という部分を取り上げました。それで6月までに高校は来年度の教育課程を提示しなければ令和5年度からの教育ができないという約束があります。6月までに全て調べて教育課程の編成もすべて行い、北海道教育委員会より栗山高校は全国公募かけても良いこととなりました。そういうことで栗山町としては、提案型で実施していかないと北海道教育委員会は首を縦に振ってくれません。新聞報道でもご存じかもしれませんが、来年度に向けての間口は半分以上の高校が間口を切られ、廃校に追い込まれています。生き残っているところは全て提案型で行い、何とか維持できている。一体的に進めなければ文部科学省も北海道教育委員会も動きません。先ほど説明にありましたが、幼保小中一貫プログラム事業も全て一貫しています。それから福祉課の介護人材の育成も連携しています。すべてこれらが一つの組織として提案していますので、北海道教育委員会の許可がおりたというところですよ。実際に今全国公募して、全国から2名の子供から手が挙がって、栗山高校で女子野球をやりたいという子供もいます。道内からも9名います。ただし、最終となる1月願書提出まで予断を許さないで、子供たちが離れないように全道各地に校長、監督、私で説明に回っています。監督の方はスポンサーをつけられないかということで道東、十勝の方にも協議して話を進めています。もし上手くいけば道南の企業にも広げていくことを考えています。いずれにしても、ご心配されていた部分について前進はしています。2間口堅持しなければ切られる方向にしか行かないので、何とか結果を出すように取り組んでいるところです。先ほどお話しした福祉と介護については全国で初めての取り組みになりますので、これからも未知数なところに挑戦していくこととなりますが、栗山を全道全国にPRしているところです。

町民：ツルハが新しくなり入り口も変わったが、迷いながら急に止まって入り口に入る方もいる。これから冬道になると危険だと思っている。ツルハの入り口が目立たなくて入りにくいのもあるかもしれないが、4車線化のなかで右折レーンを設けるなど早期にやっていただかないと事故が起こるのではないかと心配している。

町長：確かにツルハの入口は入りにくいかもしれない。4車線化についても官民で期成会をつくり、開発局とすり合わせしている。要望戦略としては、国道234号線に6つの危険交差点があり、まずそこを拡幅して将来的に4車線化に繋げていく流れとしています。今年は岩見沢方面から来て1つ目の駅方面に曲がる交差点で右折レーンを拡張した工事を行いました。いまは日赤に曲がっていく交差点の設計を行っており、来年以降工事に入っていきます。まず6カ所を拡幅して繋げていくということとしており、官民挙げて要望していきたいと思います。国道234号線の交通量は1日9千台くらい。全国で国道改築整備が行われるところは2万5千～3万台くらいの交通量のところが優先的に改修される。

まともに要望しても優先度は低い状況ですので、栗山町としては6カ所拡幅し繋げていく戦略で進めていくこととしています。その中で沿線の入りにくい交差点なども改修できればと思っています。

町民：栗山公園のそばであれば道の駅はとても良いと思う。現実的に球場2つあり野球部の話もあるので球場も大事だと思われませんが、どのように構想されているのか漠然としたものでもよいので考えがあれば教えていただきたい。

町長：国道234号線の拡幅が実施されたときに併せて実施したいと思っています。拡幅には栗山公園もかかるので、補償関係で移転できることもあるので時期的にはその時期だと思っています。私もいまの栗山公園の球場のあたりが一番いいのではないかと考えています。周辺には飲食店もありますので集約し、栗山公園で遊んでいただいてという流れが出来れば一番いいと思っています。

町民：大きな球場が富士にも公園にもあり、昔からどっちもどっちというふうに感じている。あれだけの施設の維持・改修などを考えていった時には1つにするなど、これをきっかけに今のご時世にあうよう上手にやっていたいただければと思う。

町長：向かっていく方向はそうだと思います。これからの人口減少など、いま1万程度の人口規模にこれだけ多くの公共施設があり、どんどん減っていくことは間違いない。例えば6千人になった時に今の施設を全て維持できないと思いますので、言われる通り色んなきっかけがあると思います。その時に正しい判断をしなければいけない。スキー場もその時の判断ではあったのですが、近くに長沼スキー場もあり、栗山でリフト3億円かけてやることがどうなのかということもありました。スキー連盟からも色々ご意見などありましたが、きちんと説明し理解していただけたと思っています。

町民：北広島のエスコンフィールドが来年春にオープンしますが、国道234号線を回ってお客を栗山に引き込むようなことも考えられる。栗山町もエスコンフィールドに関して色々参画していると思うがどのように進めているのか。

経営企画課主幹：ボールパークの関係ですが、近隣の17自治体が参画して協議会を作っており栗山町も参画しています。今4つの分科会がありそのうち3つに入っています。この分科会で具体的に色んな事業を実施していくことを議論している最中です。色んな事業が組み立てられていく中で栗山町も積極的に参画していきたいと考えています。周遊も含め近隣自治体と連携しながら行っていきたい。

町長：今、栗山駅の前に交流施設ができ、観光振興計画をつくってあの辺の施設をにぎわいの拠点としていきたい。来年の4月にオープン、そして北広島の方からも周遊できるような関連する複合的な効果が出るようにものにしていければと思う。

町民：今年の栗山秋まつりは天候に恵まれ凄い人出だった。休日も重なり日中の混雑具合を聞いていると、家族連れで来ている方が目立っていたということで割と栗山は通いやすい所だと思う。栗山公園も魅力的で、色んな関連する町内外のことを絡めて行ければいいと思う。駅前のファブラボなど入る拠点について、まだ実態がみえていないところがある。

町長：確かに浸透していないところがあり、広報等でも周知している。施設の中にD I Y工房、レストラン関係、FM局、多目的ホールを整備していく。例えば農産物の直売など多目的ホールで行うなど、経営面でも人を集客できるようにしていかなければいけない。施設にかかる費用は維持管理費や町からお願いする委託事業があるが、それらを除いた部分についてなるべく早い段階で黒字経営できるように今つくっている観光振興計画と併せて儲けられるような仕組みをとっていきこうとしておりますので、何とか賑わいの拠点となり、商店街の活性化にもつながればと思っています。現在つくったスケートボードパークは子供たちなど人気があり、休みの時には来て楽しんでいただいている。

町民：そこに管理人はいるのか。

町長：管理人ではないが、連盟が出来たのでそこで見てもらっているがケガなどするようなことはありません。

町民：近所で持ち主は施設に入って住んでないところがあり、何年も放置されている家がある。持ち主はいるため親族などでない者が口出しできない。明らかに住んでいないで何年も放置されていて傷んでいくので、そういった場合は相談してもいいですか。

小野寺：情報をいただければ、所有者と連絡が出来たりします。また認知症などで本人の判断能力・意思決定が出来ない場合は難しくなる。そうなる前にやれるべきことはあるため、将来的に不安があるような方や空き家予備軍となるような案件についてもお気軽にご相談ください。

町民：ふるさと納税に関して、ふるさと納税を行った場合の町に入ってくる収入と、他市町村に出ていく金額とどちらが多いのかわかるのか。

副町長：税務課の方で、栗山町の方が他の市町村に寄付した分については把握しています。いまは寄附いただく方が圧倒的に多い。

町民：それが逆転すると市町村は大変。

副町長：報道でもあったが神奈川県川崎市などそのような状態となっているので、確かに色んな声があります。

町民：マイナンバーカードと地方交付金の話もあるが、栗山町にも関係してくるのか。

町長：今後国の方で地方財政計画が策定されるので、今時点ではわからない。前の情報では全国・全道平均にいかない町については、地方交付税の算定の中で差をつけるようなことが言われていました。考え方ですが、マイナンバーカードの普及率が上がればそれだけお金がかかるといってその分多く配分するという話であります。そのため、少ないから最初から差をつけるとかの話ではない。栗山はいま全国全道平均を大きく下回っています。フォローアップ団体として国に指導を受けるような状態になっています。交付率を上げるために色々やってきてはいますが、なかなか上がっていない状況。この後の説明会もあります普及促進に向けて頑張っていきたい。

町民：光ファイバーは栗山町で100%になったのか。

総務課参与：100%になっています。

町民：子どもたちへの環境は整ったということか。

教育長：あとは各家庭で設置しているかというところがあります。

町民：今の教科書はボリュームもあり小学生は学ぶことも多く、ランドセルも重いようである。タブレットにすれば教科書はいらないのでは。

教育長：今栗山町で使っている教科書は全国的にはほぼ主流となっており、教科書がある前提でのタブレット教育となっている。デジタル教科書は非常に高く、全クラス揃えるには数千万円とかかる。道教委とタイアップして1教科として各学校で揃えるようにしている。

19：53 終了